

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率					
Ⅰ「稼げるまち」の実現																							
メガリージョンの視点による近隣市町との連携	1	メガリージョン推進事業	メガリージョンの視点で、北部九州地域の一体的な発展を目指すため、福岡市や下関市、連携中枢都市圏とのトップ会談の開催や、自治体間の連携事業の推進・拡大に向けた調査・検討を実施する。	政策課	北九州都市圏域内の宿泊者数	—	2,338千人	R1	2,268千人	集計中	—	関門エリアの観光消費額の増加	R7	646.8億円	R3	2,230.3億円	集計中	—	15,970	5,621	概ね順調	各連携市町との定期的な連絡会を実施し、より一層の連携強化を図った。 また、関門連携では、両市長会談を通して両市の市民交流や関門エリアの観光を促進する事業をPRした。 更に北九州都市圏域では圏域のPRを図るため、福岡都市圏などでプロモーションイベントを開催した。 活動指標である連携都市との協議数は目標数値を上回り（目標：14回、実績：16回）、成果指標の宿泊者数や観光消費額も増加傾向となっていることから、「概ね順調」と判断。	継続
若者のチャレンジ支援	2	シン・ジダイ創造事業（若者のチャレンジ応援）	若者の自由な発想や提案を引き出し、それらを実現させるための教育や伴走支援等を行い、地域一体で「日本一若者を応援するまち・北九州市」の実現を目指す。	Z世代課	北九州市の最近のイメージで「活躍する若者をよく目にするようになった」と答えた人の割合	R8	—	—	—	8.6%	—								50,000	45,654	概ね順調	若者から独創的なアイデアを募集して、専門家などが実行までを支援するアイデアコンテストや若者がチームを組んで事業の計画から実施までを行うワークショップなど、若者の自由な発想や提案を引き出し、それらを実現するための教育や伴走支援等を行った。 アイデアコンテストには全国から29件の応募があり、3件が採択・実行され、これらの取組が地元に限らず全国メディアも含め69件で取り上げられた。 北九州市が若者にとって様々なことにチャレンジできるまちとなり、そのチャレンジにより市内各地域の活性化が図られつつあることから「概ね順調」と判断。	継続
女性のキャリア形成支援	3	女性の視点を生かした都市課題解決推進事業	女性の視点を生かして都市課題の発見・解決を図るとともに、取組を通じて次世代の女性リーダーを育成するため、市政へのアイデア提言プロジェクト「Woman Will 北九州」を運営・実施する。	Woman Will 推進室	市政への課題提言数	R7	—	—	5件	—	—								5,000	4,636	順調	令和6年8月に、社会人・専業主婦・学生等の様々な女性メンバーで構成されるWoman Will 北九州を立ち上げ、定期活動や中間報告会など、市への政策提言に向けた5回の活動を行った。 令和7年度も引き続き、令和7年10月に実施予定の政策提言（最終報告会）に向けて活動を行う。評価としては、政策提言（最終報告会）に向け着実に事業実施しているため「順調」と判断。	継続
女性が働き続けることができる就労環境の整備の支援	4	ワーク・ライフ・バランス推進事業	多様な働き方や暮らし方を選択でき、活力ある豊かな社会の実現を目指して、企業等の取組の支援や、広報・啓発などワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進を図る。 また、「働きやすいまち北九州」の実現を目指し、北九州イクボス同盟の拡大や取組支援等を行う。	Woman Will 推進室	「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」が取れていると思う人の割合	—	62.7%	R5	R5年度比増加	62.8%	100.2%								4,359	3,807	順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰では新たに4社が受賞し、目標通りの表彰数となった。 女性活躍やワークライフバランスの推進に取り組む企業へのアドバイザー派遣、各種セミナー開催などの支援について、申込件数は令和5年度とほぼ同程度（R5：27回→R6：28回）であった。 また、これから取り組もうとする企業の参考になるよう、市内の様々な業種の企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、周知方法を工夫した。 仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が増加しており、総合的に「順調」と判断。	継続
Ⅱ「彩りあるまち」の実現																							
DXによる市民サービス向上	5	スマらく区役所サービスプロジェクト	行政手続きにかかる時間をできる限り短縮し、快適・便利な行政サービスを提供するため、手続きのオンライン化促進など、デジタル技術を活用した新たな窓口サービスの構築をフロントヤードからバックヤードまで総合的に進める。	DX・AI戦略室	オンライン申請率の向上	R7	24.0%	R4	45.0%	40.1%	89.1%	集約する窓口業務に従事している職員の作業時間の削減	R9	—	—	対象業務の窓口職員作業時間 ▲50.0%	▲45.5%	91.0%	287,583	207,806	順調	令和7年度対象手続きのオンライン化率100%達成に向け、オンライン申請ツールを提供するとともに伴走支援を実施した。 業務集約については、行政事務センターを設置し、子ども家庭分野の2業務について、業務の集約・移行を実施した。その結果、「手続きオンライン化率」、「オンライン申請率」、「集約業務に従事する窓口職員の作業時間削減」については、いずれも目標達成に向けて順調に推移している。 今後の課題として、令和7年度中にオンライン申請率のさらなる向上に向けた積極的な市民周知を図る。 業務集約については、作業時間の削減に向け、業務フローの効率化を継続的に行うとともに、業務移行の拡大に向けた詳細調査を実施する。	拡充

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性						
					事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標 年度	基準値	基準 年度	目標値	実績値	達成率											
Ⅲ「安らくまち」の実現																													
外国人との共生社会の実 現に向けた環境整備	6	外国人との共 生社会推進事 業	外国人市民が地域の 一員として本市に定着し 社会の活力となることを 目指し、北九州国際交流 協会とともに、多言語で の相談体制整備や生活情 報の提供など暮らしやす い生活環境づくりを行 う。また、多文化共生の 意識醸成に向けた事業を 実施し、国籍に関わらず 誰にとっても魅力ある地 域づくりを進める。	国際 政策 課	市民の「多 文化共生」 という言葉 の認知度	—	59.5%	R5	62.0%	%	55.9%	%	90.2%	「暮らしや すい」と回 答した人の 割合（外国 人市民アン ケート：1 回／5年）	—	72.4%	R5	—			—			—	65,821	64,266	概ね 順調	令和6年度は、留学生支援ネットワーク加盟 団体のうち、留学生受け入れ機関の実務担当者 にヒアリングを実施。留学生の生活状況、就 職、困りごと、行政への要望など様々なニーズ を把握し、外国人との共生社会の実現に向け て、外国人市民の課題・現状の把握に努めてい ることから、「概ね順調」と判断。 拾い上げたニーズから個別施策へと展開して いくためには、各局との連携が重要であり、庁 内横断的な連携体制を強化する必要がある。令 和7年度からは、「外国人材の受入れ環境整備 事業」において、引き続き取り組んでいく。	廃止